

福祉教育

部会だより

声をかけ合う地域に①

人とのかかわりあいが少なくなって
しまった社会・・・

国際比較によると日本の子供は非常
に「**自分は孤独だ**」と感じていて
向上心も極めて低いと報告され
ています。

今、子どもたちにとって大切なことは豊かな
「人のかかわり」と「さまざまな体験」では
ないでしょうか。その第一歩が「**あいさつ**」
です。家庭でも、学校でも、地域でもあいさ
つが響きわたる北区にしていましょう。

お互いに声をかけ合うことが助け合いの入
り口です。大人がモデルをしめしましょう。

あいさつが
できるようになるにはこんな順序が
あります!

あいさつで築く人間関係



おはよう
ございます



おはよう、
いってらっしゃい



おはよう、
いつも元気だね

1
まずは家族の間で
あいさつが自然に
できるように
しましょう。

2
地域では、
親があいさつ
のお手本を示
しましょう。

3
お手本を示
ながら、子ども
と一緒にあいさつ
ができたときは、
しっかりほめて
あげましょう。

4
子どもが1人でも
あいさつできる
ようになります。

あいさつで
つながる心

- 知り合うきっかけになる
- 気持ちがよくなる
- 体の調子や機嫌がわかる
- 話しやすくなる

- ★ さようなら
- ★ いただきます
- ★ ごちそうさまでした

- ★ おやすみなさい
- ★ ありがとう
- ★ ごめんなさい

心をつなぐ
いろいろな言葉

防犯上の効果あり

1 きちんあいさつできる子は
声を出せる子なので、
不審者に狙われにくいと
言われています。

おはよう!



2 あいさつをすることで
近所の人がかどの子か
わかり、何かあった
ときに情報収集が
しやすくなります。



〇〇ちゃんは
友だちと3時頃に
ここを通ったわよ

大人からすすんで子どもに声をかけましょう!

新潟県教育委員会・新潟県地域家庭教育推進協議会発行 家庭教育支援ガイドブックより

※北区自治協議会とは・・・市民と行政の協働によって住民自治の推進を図るため設置された市長の附属機関です。
委員は、各地域コミュニティ協議会や公共的団体等から推薦された人、学識経験者、公募委員などで構成されています。
福祉教育部会は、より実践的な検討をするために自治協議会に設置されている部会の一つです。



日本は世界がこれまで経験したことのない 「超高齢社会」を迎えています。

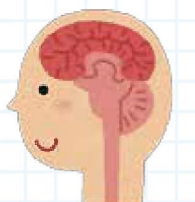
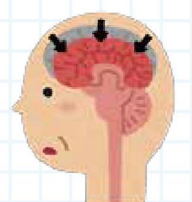
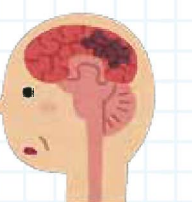
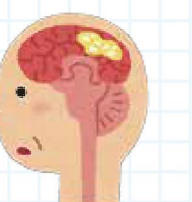
長生きできることは喜ばしいことかも知れませんが、超高齢社会の重要な課題のひとつであり、老後の大きな不安となっているのが「認知症」です。

「認知症」は、誰にでも起こりうる脳の病気によるもので、85歳以上になると4人のうち1人に認知症の症状があるとされています。その数は今後20年で倍増するとも予想されています。



認知症ってどんな病気？

認知症は、さまざまな原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったりするためにおこる脳の病気によるものです。もの忘れがひどくなったり、できていたことができなくなり、今までのような生活が送れなくなります。

 <p>健康な脳</p>	<p>脳の細胞が死んで脳全体がちぢんでしまう。</p>  <p>アルツハイマー病の脳</p>	<p>血管がつまって、一部の細胞が死んでしまう。</p>  <p>脳血管性認知症の脳</p>	<p>異常なたんぱく質が脳の神経細胞内にたまる。</p>  <p>レビー小体型認知症の脳</p>
--	--	---	--

認知症になるとおこること

脳の細胞が死んでしまうことによって直接おこる症状 (中核症状)

- ・ 覚えられない
- ・ 忘れてしまう
- ・ 時間や月日、場所、人が分からなくなる
- ・ 考えるスピードが遅くなる
- ・ 新しい機械が使いにくくなる
- ・ 計画を立てられない、計画どおりにできなくなる



生活や環境、心の状態によって出る症状 (行動・心理症状)

- ・ 元気がなくなる
- ・ 「ものを盗られた」と思い込む
- ・ 道に迷って家に帰れない

まわりの人の助けがあれば良くなります



声をかけ合う地域に②



みんなて
認知症の人を支えよう

認知症の人はいつもの自分と違うと感じ、誰よりも苦しんだり、悩んだり、悲しんだりしています。まわりの人が認知症の人の不安な気持ちを感じとったり、何に困っているかを見てとり、声をかけ合うことも大切です。優しく言葉をかけたり、手をかしたりする人が町じゅうにいれば、認知症になっても安心して暮らしていくことができます。

ご感想をお寄せください♪

✉ 北区役所地域課メールアドレス chiiki.n@city.niigata.lg.jp